

今年も夏がやってきた。夏の特集と言えば、いかに夏を涼しく過ごすかに意識が向きがちだが、炎天下だからこそ楽しめるイベントやスポーツ、食べ物がある。

花火大会に祭囃子に肝試し、7月には海開きや富士山の山開きも始まり、マリンスポーツや高校野球などの大会がピークを迎える。他にもビアガーデンやバーベキュー、瑞々しい夏野菜など、グルメが豊富なのも夏の醍醐味と言えるよう。美味しく楽しく、できれば快適に夏を過ごすために、本特集では「冷たい」「熱い」の対極するテーマに沿った図書館資料を紹介する。

夏のひんやり味覚!

★『かき氷 for Professionals』(旭屋出版編集部/編、旭屋出版2019年、所蔵:中央)

夏の味覚と言えばかき氷は外せない! 最近では真冬にも食べられているかき氷だが、需要が高まるのは断然、夏だろう。本書は、材料の「氷」の知識から始まりかき氷店に卸される氷の蔵元のこだわりを丁寧に解説している。さらに、関東・関西圏を中心に活躍するかき氷専門店の人気レシピを紹介するグルメガイドの顔も持つ。

★『夏とごはん』(渡辺有子/著、筑摩書房、2012年、所蔵:中央・江古田・上高田)

酷暑を乗り切るにはまず身体を整えることが肝心だ。夏バテや夏風邪、寒暖差による体調不良…。食養生とはよく言ったものだが、特に夏は食に気を付けなければならぬ。本書では「食欲がないとき」「スタミナをつける」など、夏特有の不調に合わせてレシピを項目ごとに紹介している。自分の今の体調や気分にあった内容のレシピをすぐに探すことができる。

合わせて読みたい!

★雑誌『うかたま』(農山漁村文化協会/編、所蔵:江古田)

過言ではない多彩なフォトスクラップが目を惹きつけ、巻末には海外旅行に最適なHow toも網羅されている、まさに海外フェス巡りに特化したガイド本だ。

合わせて読みたい!

★雑誌『HiVi』(ハイヴィ)
(ステレオサウンド/編、所蔵:中央)
★雑誌『ROCKIN' ON JAPAN』(ロックイン・オン/編、所蔵:野方)

飛び出せ!屋外!

★『グランピングBOOK 関東周辺』(昭文社、2019年、所蔵:中央)



「Glamorous (魅力的な) Camping (キャンピング)」を掛け合わせた造語、グランピング。「キャンプとグランピングは何が違うの?」その答えが本書にある。サバイバル感を楽しめるキャンプとは違い、グランピングはリゾート気分が優雅に、かつリーズナブルな価格で自然を満喫することができ。虫が苦手、暑いのはちょっと…。自分で全部準備するのは面倒、でもキャンプ気分は味わいたい!そんなわがままを

夏といえば海!

★『南の夢の海へ』(高砂淳二/著、ピエ・ブックス、2010年、所蔵:江古田)



「母なる海」「生命の起源」とも例えられる海。その写真集と言えればありふれた内容に聞こえるかもしれないが、自宅にいながら、まるで海に行ったような気分を味わえるのは写真集ならではの良さ。モルジブやハワイなどの南海に焦点を当て、22×27cmサイズいっぱい広がる幻想的な青の風景を、冷房の効いた涼しい自宅で眺めるのも、一つの夏の楽しみ方ではないだろうか。

★『水族館の文化史』(溝井裕一/著、勉誠出版、2018年、所蔵:中央)

陸上生物とは違い、人が踏み込めない海域に属する生物の観察と公開を目的とした水族館は、身近な娯楽施設であるとともに、少し特殊な施設と言えるかもしれない。本書を読むとそれがよく分かる。

すべて叶えてくれるのがグランピングだ。本書を片手に、趣向を変えた休日を楽しんでみてはいかがだろうか。

★『THE CAMPSTYLE BOOK Re・edit 2012・2017』(三栄書房、2018年、所蔵:南台)

キャンプの楽しみ方はいろいろある。アウトドア料理を楽しんだり、アウトドアスポーツを重視したり、どれに焦点を当てるかによって楽しみ方は多様な広がりを見せる。本書は6つのテーマごとに各ジャンルに精通したキャンパー達のオールインワンのスタイルを紹介している。「こんな風にもっとキャンプを楽しみたい」という方は、ぜひ本書を手にとっていただきたい。きっと、貴方だけのキャンプスタイルが見つかるはずだ。巻末には、キャンプに役立つ便利なアイデアも掲載されているので、実用書としても申し分ない。

合わせて読みたい!

★雑誌『BE・PAL (ビーパル)』(小学館/編、所蔵:中央・江古田)

夏こそ降る味覚!

★『お父さんのためのバーベキューBOOK』(下城民夫/監修、ネコ・パブリッシング、2018年、所蔵:中央)

子供と一緒にBBQをするとき、火や刃物は危ないからと遠ざけてしまいがち…。子供がいるからこそ出てくる悩み

文化史と銘打つ通り、古代人の海洋生物への史観から、中世、そして現代における水族館の在り方に至るまで、幅広い分野から水族館を解説している。本書を通して、また別の視点で水族館を楽しむことができるだろう。

合わせて読みたい!

★雑誌『アサヒカメラ』(朝日新聞出版社/編、所蔵:野方・南台・鷺宮・江古田)
★雑誌『月刊アクアライフ』(エムピージー/編、所蔵:中央)

家で涼しく快適に!

★『夏を涼しく!おばあちゃんの知恵袋』(おばあちゃんの知恵袋の会/著、大和出版、2011年、所蔵:中央・野方)



本書は、夏を快適に過ごすコツを、おばあちゃんの知恵袋から抜粋して収録している。衣食住を主体に、夏だからこそ知っておきたい夏風邪予防や安眠の工夫、夏バテになったときの対処法なども掲載している。

の打開策が本書にはある。道具選びから始まり、炬組みや火起こし、食材を焼くとき、これ一冊で、所々に遊びを交えながら子供と一緒にBBQを楽しむことができる。

★『ひとりぶんのスパイスカレー』(印度カリー子/著、山と溪谷社、2019年、所蔵:南台・鷺宮)



夏の味覚と言えばカレー。でも、カレーを作ると消費するのが大変…。そんなカレーの「困った!」から卒業できるのが本書だ。スパイスカレーと聞くと難しそうイメージを持ってしまいがちだが、本書ではたった3つのスパイスで美味しいカレーができてしまう。しかも「一人分」というのがまたうれしい。きっと、スパイスカレーの虜になること請け合いだ。

今回の特集は「納涼」が一つのテーマだが、涼しさを求めることだけでなく、夏を一つのイベントとして心待ちにする人も少なくない。今回紹介しきれなかった本も、またたくさん図書館には所蔵されている。夏は始まったばかり。暑い夏だからこそ、最高の一時を図書館資料とともに過ごしていただきたい。

あなたはどっち派!?



イベントはどっち派!

★『The World Festival Guide』(津田昌太郎/著、いろいろ出版、2019年、所蔵:鷺宮)



夏と言えば音楽フェスが各地で盛り上がりを見せる季節だ。国内でも様々なフェスが開かれるが、海外にも多様な音楽の祭典があることはご存知だろうか。フジロックのモデルになったグラスストンベリー・フェスティバルに参加したことなきっかけに会社を退職し、現在は音楽フェス情報サイトの編集長を務める著者が語る「フェス旅」の魅力が本書には詰まっている。フェスの写真集と言っても